



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井 戸 知 事

平成十六年春の叙勲

県下から消防功勞により十四名が受章

平成十六年春の叙勲が四月二十九日(みどりの日)に発令されました。

消防関係の受章者は、全国で四二一名、うち兵庫県では、元消防団・職員十四名が榮譽に輝きました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災をはじめとする各種の災

害から防護するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発

展に寄与した消防関係の方々です。伝達式は、五月十日(月)十時三十分から東京・虎ノ門の日本消防会館内ニッショーホールで執り行われ、消防庁長官から各代表者に叙勲が伝達されました。

火は消した？
いつも心に
きいてみて



叙勲伝達式

消防関係叙勲伝達式

- ◎全国消防関係受章者数
- 瑞宝中綬章 一名
- 旭日小綬章 一名
- 瑞宝小綬章 十二名
- 旭日双光章 三名
- 瑞宝双光章 二二三名
- 瑞宝単光章 二八一名
- 計 四二二名

〈兵庫県下受章者(消防功勞)〉

◎瑞宝小綬章

元尼崎市消防局

消防正監 今井 健祐



◎瑞宝双光章

元小野市消防団

団長 吉田 博省



元太子町消防団

団長 大川 正勝



元村岡町消防団

団長 前田 正格



元大屋町消防団

団長 正垣 美明



◎瑞宝単光章

元神戸市西消防団

副団長 柳瀬 幸雄



元尼崎市消防団

分団長 大垣 利夫



元龍野市消防局

副団長 森川 展宏



元高砂市消防団

副団長 古田 吉作



元三田市消防団

分団長 田口 明



元竹野町消防団

副団長 清水 光夫

元八鹿町消防団

副団長 森本 俊一

元淡路町消防団

副団長 松林 時弘

元北淡町消防団

団長 繁田 安啓

平成十六年春の褒章

平成十六年春の褒章が四月二十九日(みどりの日)に発令されました。

◎藍綬褒章

元神戸市水上消防団

団長 山本五十六

山崎町消防団

団長 高井 政義

伝達式は、五月十七日(月)十三時から東京・霞ヶ関の総務省講堂で執り行われ、消防庁長官から代表者に褒章が授与されました。消防団員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した方々に授与される藍綬褒章は全国で五十一名、兵庫県では元神戸市水上消防団の山本五十六団長、山崎町消防団の高井政義団長が受章の榮譽に輝きました。

褒章伝達式

元加古川市消防団副団長

永井 伸一



私が消防団に入団した当時は、現在より団員数が多かったのですが、消防の行事は、やはり新春の出初式から始まります。新しい年を迎えて消防人の自覚と郷土愛に燃え、厳寒の中の出初式に臨んだ時は誠にすがすがしい気持ちでありました。また年末警戒では、町内巡回を行い、詰所で暖を取りながら、町内及び地区内のしきたりなどを先輩から聞き、いろいろなお話を身に付けたりして、世間の仲間入りが果たせるようになりました。団員に任命され、昭和五十五年に団員定数が改正されるとともに、ポンプ自動車一台、小型ポンプ積載車一台が配備され機動力が向上し、火災その他あらゆる災害に迅速に対応できる分団になりました。災害現場と警戒が活動の場であった昔に比べると、今日では常備消防の充実により、火災があっても消防団は補助的な活動をする事が多いかもしれません。そこで、自分達の地域は自分達で守ることを基本に、連合町内会、地区の役員の方の協力を得て、自主防火及び火災を出さない町づくりに努めることを目的とする女性中心の「野口町防火推進委員会」を設置しました。消防団在職期間中、災害のない町、信頼される消防団の一員として活動出来たことが大きな財産になったと思っています。消防団員の皆様、更なる訓練を重ねられ、住みよい町づくりに努めて下さい。

消防団今昔

30

春日町消防団長

藤本 修作



私の消防生活を顧みてアツという間の三十二年間で、昭和四十七年に二十歳で入団、当時は消防団に入団しなければ、一人前の男として認められなかった時代でした。先輩の法被を受け継ぎ、伝統を尊重し、且つ、重責を感じながら現在まで活動して参りました。入団當時、初めての住宅火災での現場

において何をしていたのかかわからず足が震えていたことがつい昨日のように思い出されます。さて、我が消防団の沿革は昭和三十一年に発足、当時は団員数一、〇九二名二十七分団、ポンプ車九台、手引きポンプ十六台、腕用ポンプ二台で活動したと記録が残っています。この後二回の消防団機構改革を行っていたのですが、私が副団長時の平成十年、三度目の消防団機構改革の必要性が生じて参りました。サラリーマン化による昼間の消防力の低下、また、地区別の出生率の低下等を参考資料に、今後懸念される消防団員確保に向けての問題が機構改革のテーマでした。

サラリーマン化の進行・出生率の低下を鑑みますと、団員の定数減は避けて通れない状況下にあり当時は試行錯誤の連続でした。しかしながら団幹部・町当局とも協議を進める中、団員減少による消防力の低下を消防資機材の充実を図ることによってカバーできると判断し、平成十三年十二月、現在の全五分団十七部団員定数四二〇名の機構改革を実施いたしました。現在は機構改革の成果も表れ、ポンプ自動車においては水槽付ポンプ自動車三台更新し、また可搬式ポンプにおいては、B-1級からB-2級に更新、団員定数の減少を消防資機材の充実で補うことが充分可能であるというところを実感しております。また、訓練においては「より

実践」をモットーに様々な火災を想定し直列高圧放水隊形等高度な技術の習得に切磋琢磨いたしております。今後においては懸念される南海大地震等をも想定し消火活動のみならず災害活動にも重点を置き、さらなる技術習得に向け努力して参りたいと考えております。最後になりましたが、本年十一月より郡内六町が合併し新しく丹波市としてスタートいたします。消防団においても六町団合併し新しく丹波市消防団が発足いたします。新市消防団発足後においても、旧六町消防団「一致団結し「明るく住みよい町づくり」をモットーに協力していくことを守っていききたい」と考えている今日この頃です。

その山本団長に代わり平成十六年四月より渡邊真二団長がその職務を引き継ぐことになりました。渡邊団長は、六甲アイランドでの年末警戒・子供リレーなど率先した地域活動への実績とともに、神戸港全域に精通していることから、港湾・海事関係者からの信頼も得て、平成八年に第七分団発足と同時に第七分団長として入団しました。入団後も地域に根ざした活動に心がけ、団員・住民からの信頼も厚く、模範的な消防団幹部として、本分団団長、副団長と歴任し、その責任を果してきました。この度、その実績から、水上消防団長の職務に就くこととなりました。今後水上消防団は渡邊新団長の下一致団結し、一丸となって神戸港の防災に努めていききたいと思っております。

そこには、災害が発生すると、災害現場に出動し、地元の消防職員と協力し合い、防衛活動や消火活動それに付近住民の避難誘導、警戒活動など幅広い活動に積極的に従事する心強い存在



すがすがしい風が、青葉若葉を揺らす季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では平成十六年度春の叙勲・褒章について掲載しております。また消防団今昔には元加古川市消防団副団長永井伸一さん、春日町消防団長藤本修作さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。なお、今年度の「兵庫消防」の編集は引き続き間村、前田と新しく高見が担当となりました。よろしくお願ひ致します。



辞令交付後の歓談の様子(右奥が渡邊団長)

神戸は日本列島のほぼ中央に位置し、六甲山を背に東西に長く街が延びています。その中心には、世界に誇る美しい町並みが広がり、海岸部には都心のウォーターフロント空間としてメリケンパークなどが整備され、この海の町神戸に国内外問わず多くの人々が訪れています。また、古くから世界有数の貿易港として大規模な倉庫が建ち並び、賑わってききましたが、阪神・淡路大震災で大きな被害を受けました。今では数多くの方々の支援と市民の強い思

「ただいま」と消防団の演習から帰ってきた父の声。私は、日曜日という事もあり、遅い朝食を摂りながらその声を聞いた。休みの日でも村の用事や祭りが、この駐車場係等、本当にこれが「消防団の仕事」なのかと疑問に思うような行事にまでも出掛けて行く父。時には、朝から夕方過ぎまで帰って来ない日もあるし、何週に亘って出掛ける時もある。帰宅した父は、いつも「あーいんど」と言いながら横になり、そのままウトウトとしている。月曜日にはまた、普段通りに会社勤めに戻る父。私は、父も含めてそんな消防団の皆さんの日頃からのがんばりのお陰で、今日も安心して過ごせるのだと思うと同時に、そんな頑張り続けている消防団の皆さんの体のことが心配です。私が父の事を心配するのは、皆さんにも皆さんの事を心配している家族がいることを頭のすみにおいて、体に気を付けながら、頑張ってください。

「今日も一日出番がありませんように」と強く思いながら、学校へと向かって進む自転車のペダルを踏む足に力を込めました。(学年は入賞時)

地区通信

港にヤングリーダー登場

神戸市水上消防団

く街が延びています。その中心には、世界に誇る美しい町並みが広がり、海岸部には都心のウォーターフロント空間としてメリケンパークなどが整備され、この海の町神戸に国内外問わず多くの人々が訪れています。また、古くから世界有数の貿易港として大規模な倉庫が建ち並び、賑わってき

た山本五十六団長が平成十六年三月三十一日をもって勇退されました。山本団長は平成元年から団長として職務に献身的に務めてこられ、平成四年には神戸市消防協会副会長と兵庫県消防協会理事も務められ、神戸市だけでなく県の消防のためにも尽力してこられました。

その山本団長に代わり平成十六年四月より渡邊真二団長がその職務を引き継ぐことになりました。渡邊団長は、六甲アイランドでの年末警戒・子供リレーなど率先した地域活動への実績とともに、神戸港全域に精通していることから、港湾・海事関係者からの信頼も得て、平成八年に第七分団発足と同時に第七分団長として入団しました。

入団後も地域に根ざした活動に心がけ、団員・住民からの信頼も厚く、模範的な消防団幹部として、本分団団長、副団長と歴任し、その責任を果してきました。この度、その実績から、水上消防団長の職務に就くこととなりました。

今後水上消防団は渡邊新団長の下一致団結し、一丸となって神戸港の防災に努めていききたいと思っております。

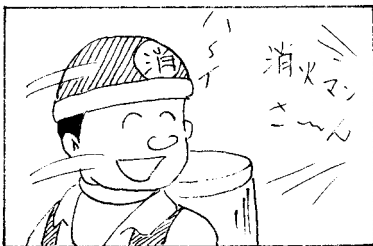
◎佳作
わたしのまちの消防団員
上郡町立上郡中学校
一年 中里 佳澄

とあり、「自分たちの街は自分たちで守る」という使命のもとに活動していることとありました。私は、父もそのような使命感のもと活動している消防団の一員だということをとてつも誇りに思うと共に、私達も日頃から防火・防災に関して理解を深める努力と、これからも、もっと防火活動に積極的に参加していく必要があると強く感じました。

平成十五年度
全国中学生「防火・防災に関する」
作文コンクール入賞作品
兵庫 県 消防 協会

編集後記

消火マン 品川レスカ



「漁師の団長」

家島町消防団
長谷川 博一 団長



谷崎潤一郎の「乱菊物語」にもうたわれている家島町は、姫路市から南西十八km(定期船で約二十五分)を隔てた瀬戸内海播磨灘の中央に位置し、四十余の島しょによる総称である家島群島全域をもって組織しており、人口八、二〇〇人余の風光明媚な町です。

長谷川団長は、昭和四十七年九月に家島町消防団宮分団に入団され、平成十五年四月に団長に就任されました。家島町消防団員を拝命以来、

わがまちの団長さん

114



三十二年余りにわたり団員並びに幹部として、豊富な知識経験をもって消防の育成と強化に努めておられます。また、消防防災活動では常に先頭に立ち、その機敏で果敢な行動は全団員の模範となっております。

温厚で誠実な人柄により、団員の信望は厚く、地域住民からも深く敬愛されています。また、小学生の息子さんもそんなお父さんが大好きで、町外に出張している時は毎回のように携帯電話

話に「何時に帰ってくるの?」と電話が入るそうです。今後も健康に留意され家島町民の生命と財産を守るため、団員と一丸となって頑張ってください。

「花とお酒をこよなく愛する心やさしい団長さん」

八千代町消防団
梶間 信明 団長



八千代町は、兵庫県のほぼ中央部、名峰「釜形山」がそびえる緑と清流に囲まれた、人口六、二〇〇人の町です。名勝「竹谷山」には美しい渓谷があり、四季を通じてハイキング等で賑わっています。

また、祝日「敬老の日」発祥の町でもある当町は、「自然と善意の町」がキャッチフレーズとなっております。

梶間団長は、昭和五十九年に団員を拝命し、昨年四月に消防団長に就任されてからは三四〇人余の団員の先頭に立ち、地域住民が安心して暮らせる町づくりにスローガンに日夜熱意を持って消防業務に取り組んでおられます。

また、昼間団員の不足を補うために地域住民を対象とした初期消火訓練や防火協力員制度を確立されるなど、災害に強いまちづくりを目指されています。さらに、市町村合併に伴う多可郡三町の消防団の一本化に向けて、他町の各消防団長とともに住民の信託に応えられる組織づくりなどにも誠心誠意取り組まれています。そんな団長さん

地区通信

いざという時に慌てないために 発災対応型防災総合訓練

宍粟郡一宮町消防団

中国山地の東南斜面に広がる本町は、播磨北西部に位置し、面積二一・三・八四km²で、町としては県下最大の面積を有しています。

一宮町消防団は、現在十二分団三十二部、団員数五六〇名で組織され、現有力は、ポンプ自動車六台、小型動力ポンプ付積載車二十五台、小型動力ポンプ一台です。

平時から火災への対応はもろること、礼式訓練やポンプ操法訓練、模擬火災訓練、水防工法訓練等に積極的に取り組み、団員の士気高揚と消防技術の向上に努めています。特に、消防の活躍は毎回注目されることとあり、平成十四年七月七日に開催された第十九回西播磨地区大会(小型ポンプの部)で、四連覇を果たし、同年十月二十四日に横浜市消防訓練センターで開催された第十八回全国消防操法大会では、県下一〇〇消防団

戸小学校区を会場に、本町が一昨年より取り組んでいる発災対応型(会場分散型)(地域分散型)方式により開催されました。今回の訓練で、一宮町消防団は、宍粟郡消防応援協定に基づく応援要請訓練や水防工法訓練、同時多発火災に対応した消火訓練等に取り組み、五町消防団の連携強化と、初動対応力の向上を図る事が出来ました。

また、自主防災組織との関係においても、災害発生時の初期段階における情報収集や避難広報、避難誘導、初期消火等の合同訓練を通じて、相互の役割の確認と、連携の強化が図られたものと確信しています。

最後に、今回の訓練が、今後各町の防災訓練のあり方に一石を投じる結果となれば幸いです。

各訓練の様子



北から南から

「加西の祭り」

加西市消防団

加西市は兵庫県の南部、播磨平野のほぼ中央部に位置しており、根日女恋伝説として知られる国史跡玉丘古墳をはじめ、四百墓余りの古墳や、国宝の三重の塔を有する法華山一乗寺、また、四百数十体の石仏群である五百羅漢や古法華三尊石仏、山伏峠石棺仏など播磨に開花した石造文化、遺物など多くの歴史の遺産が残っています。一方「花と緑のまち、加西」にふさわしい、県立フラワーセンターや、いこいの村はりま、古法華自然公園、丸山総合公園など、豊かな自然を生かした施設も多く、一年を通じて観光客で賑わっています。ここで皆様にも、新たな加西の魅力を発見していただきたく、今回は春と夏に加西市内で行われる祭りを紹介します。



節句祭り 化粧屋台の巡行

まず、毎年四月の第一土、日曜日に北条町で行われる、住吉神社の節句祭りを紹介します。

この祭りは、播州三大祭りの一つに教えられ、八百年以上前に始まり、長い歴史と伝統を引き継ぐ、播州平野に春を呼ぶ祭



鶏合わせ風景



加西サイサイまつり

防団は事故防止のため雑踏警備、サイサイまつりにおける花火警戒等、裏方として重要な役割を果たしています。特に花火警戒は、打ち上げ場所周辺に山林が隣接しているため、打ち上げ前の事前散水、打ち上げ中の警戒に消防本部と合同で多数の団員が活動しています。

みなさまも、機会がありましたら、加西市へおいいただき、ぜひ加西の祭りをご覧ください。

かねてより兵庫県が整備をすすめている三木震災記念公園(仮称 内に、地域の安全・安心に関わる人材育成機能を担う兵庫県立広域防災センター(兵庫県消防学校)がこのほど完成しました。三月二十一日(日)には竣工式典が盛大に執り行われ、四月一日から供用を開始し、現在は県下各消防本部に今年度採用された消防士一〇〇名が、初任教育生として学習・訓練に励んでいます。

施設の概要を紹介しますと、震災記念公園全面積は三〇八haあり、そのうち約三分の一が手消防団員意見交換会終了

「兵庫県立 広域防災センター」オープン

兵庫県消防協会

の二〇六haが学習・訓練ゾーンとされており、その中心施設が兵庫県立広域防災センターとなっております。

センター内には教育棟や宿泊棟はもちろん、屋内訓練棟を始めとする様々な訓練棟、訓練場を備え、また、それぞれがより実践的な訓練ができるよう工夫が凝らされており、複雑・多様化する災害に対応できる消防団員・職員の養成を行うとともに、地域の防災リーダーの防災研修なども行います。

皆様もぜひ一度新しく生まれ変わった消防学校に入校いただき、最新の施設での学習・訓練を体験してください。

美と力を備えた新しいテクノロジーが社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学するモリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪市長生野区小橋東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6756)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山

吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

屈折梯子付消防ポンプ自動車	消防救助工作車
化学消防ポンプ自動車	小型ポンプ積載車
水槽付消防ポンプ自動車	シバウラ小型動力消防ポンプ
普通型消防ポンプ自動車	各種消防用品
高発泡機付消防自動車	消防用ホース

株式会社 吉谷機械製作所

本社・工場 鳥取市古海356の1
TEL(0857)23-2211(代)
FAX(0857)27-1766

